

「布でえがくと」

令和6年11月22日 4年2組

教諭

様々な布に出会い、色の感じや組合せから感じたことを基に、表したいことを見付け、布の感じを生かしながら、工夫して絵に表す。

第1時

布を組み合わせると、
どんな感じがするかためしてみよう。

＜材料や用具と向き合う時間の設定と児童の気づきに共感する働きかけ＞
布の色や質感などの感じから発想が広がるように、様々な種類の布を用意し、布の感じを捉える時間を十分に設ける。



組合せ方で見え方が変わるね！

左は昔な感じで、右は今の感じ。昔は暗めな色の布にして、今は明るめの布を組み合わせようかな。

第2時 本時

布の組み合わせた感じから、
「表したいこと」を見付けよう。

＜自己決定のきっかけづくりと対話を生み出す工夫＞
抽象的概念も形や色で表せることを捉え、発想の幅を広げる。図工室の中央に材料コーナーを用意し、友人の作品を見ながら自然と対話できるようにする。



ごちゃごちゃしているから、まっすぐ並べてみたらどんな感じになるかな。

チェックはお母さんのイメージ。ネクタイ柄はお父さんのイメージ…家族を表してみようかな。

第3時 第4時

表したいことに合わせて、表し方を工夫しよう。

第5時

友達の表したものを見ながら、どのような工夫をして活動したのかを伝え合おう。



うんめいの出会い 心なびく
ピクニックをしているときの光り輝く思い出を表しました。緑の布はそのときのさわやかな感じをイメージしています。そろえて貼ることで、すっきりした感じになりました。

ゆううつな梅雨
梅雨が長引きすぎて、低地が沈んでしまった世界。木も沈んでいるのに、みんなプールを楽しんでいるところを表しました。

支え合いの関係性
真ん中の黄色は自分、周りにはいる人は、自分と親しい人。アーチに貼ることで、自分はたくさんの人に支えられていることを表しました。アーチの外は、今後出会う人たちを表しています。